



Newsletter

No.31 (2014.12.26 発行)

JAICOWS 総会のお知らせ

下記の要領で JAICOWS 総会とシンポジウムを開催します。多数の皆様のお集りをお待ちしています。

JAICOWS 会長 原ひろ子

日 時：2015 年 1 月 31 日（土） 12 時～13 時：役員会（8 号館 5 階 5A 会議室）
13 時～14 時：総会
14 時から：シンポジウム

場 所：専修大学 8 号館 4 階 402 号室（最後のページの地図参照）

総会議事

1. 2015 年度事業計画
2. 2014 年度会計報告
3. 2015 年度予算案
4. その他

シンポジウム：性犯罪規程のありかた — ジェンダーの視点から

岩井 宜子（日本学術会議元会員 専修大学名誉教授） 「性犯罪規定の見直しに向けて」
後藤 弘子（日本学術会議会員 千葉大学法科大学院教授） 「日本の性犯罪の現状と問題点」
羽場久美子（日本学術会議会員 青山学院大学教授） 「グローバル化とトラフィッキング（人身売買）」

※ 出欠の有無・委任状を同封のはがきで来年 1 月 15 日までにご返送ください。

JAICOWS 2014 年度第 1 回役員会議事録

日 時：2014 年 9 月 8 日（月） 18：00～21：00

場 所：専修大学神田校舎 8 号館 5A 会議室

出 席：岩井宜子、国枝たか子、直井道子、長野ひろ子、羽場久美子、原ひろ子（6 名、50 音順、敬称略）

審議事項

- (1) 第 23 期日本学術会議会員・連携会員に JAICOWS への入会を勧誘する件
入会勧誘のピラを検討し、岩井が役員の皆様にファイルで送り、総会等、新会員の集まる場で勧誘を行うこととした。

(2) 総会の開催予定

2015年1月に講演会ないしはシンポジウムを行い、総会・役員会も開催することとした。
シンポジウムはJAICOWSからの演者とする。(内容については総会のお知らせ参照のこと)

(3) ニュースレターの発行

総会の前、12月中に31号を発行し、総会の案内も行うことにする。

(4) 原会長の引退の意向表明

次回(12月8日予定)で、さらに次期会長・役員について話し合うこととした。
役員の増員が必要という点では、合意があった。

JAICOWS 2014年度第2回役員会議事録

日 時：2014年12月8日(月) 18:00～20:10

場 所：専修大学神田校舎8号館5A会議室

出 席：岩井宜子、国枝たか子、直井道子、羽場久美子、原ひろ子(5名、50音順、敬称略)

(1) 総会の開催予定

2015年1月31日のシンポジウムを行い、総会・役員会も開催することとした。
(会場・内容については総会のお知らせ参照のこと)

(2) ニュースレターの発行

総会の前、12月中に31号を発行し、総会の案内も行うことにする。

(3) JAICOWSの役割・存在意義・新入会員の勧誘などについて討論した。

23期の日本学術会議の女性会員・連携会員について

10月1日に23期の日本学術会議会員が発表になりました。会員のお名前は下記のとおりで合計49人、会員全体の22.9%で、22期とまったく同じ数となりました。なお、このうち新規の会員は34人で、下の一覧表には新規の方には*をつけてあります。(お名前は敬称略、50音順としました。)

*青木玲子	*東みゆき	*荒川薫	井野瀬久美恵	*今井由美子	*遠藤薫
太田喜久子	*岡田真美子	*小川宣子	苧阪満里子	小幡純子	*甲斐知恵子
*片田範子	*加藤昌子	*神尾陽子	川合真紀	*木部暢子	*窪田幸子
倉田のり	*久留島典子	*古城佳子	*小谷元子	後藤弘子	*塩見美喜子
*高橋桂子	田島節子	*恒吉僚子	土井美和子	仲真紀子	*永瀬伸子
那須民江	*西崎文子	*西村いくこ	*糠塚康江	*波多野睦子	羽場久美子
*平井みどり	*廣瀬真理子	深川由起子	*福山満由美	*藤原聖子	*本田由紀
本間さと	*松尾由賀利	*三成美保	*向井千秋	*村川康子	桃井真里子
*渡辺美代子					

連携会員1,880人中、女性連携会員は420名、22.3%でした。

また、副会長に向井千秋会員(学術会議の組織運営および科学者間の連携担当)、井野瀬久美恵会員(学術会議と政府、社会および国民等との関係に関すること担当)が任命されました。

皆様のご活躍をお祈りいたします。

「天文学のおもしろさ」とジェンダー・フリー

加藤 万里子（慶応義塾大学教授）



20世紀にノーベル賞を受賞する女性研究者のため
イラスト：加藤万里子

1. 天文学のおもしろさ

— ご専門の研究についてお話しください。

イタリアのパドヴァ天文台に、2007年から研究のため滞在しましたが、学生から研究者に至るまで女性の数が多いのに驚きました。理系の女性が、ごく普通に多いのです。パドヴァでは50代の専任教員の30%以上が女性でした。科学はおもしろい仕事なので当然です。

天文学のおもしろさは「謎解き」です。この不思議な分野は未踏のおもしろさ（絶え間のないフロンティア）にあふれています。私の専門は「星の内部構造」ですが、星の内部は誰一人として、その眼で見たことがないものです。また「宇宙はビッグバンで始まった」と言われていますが、これも誰一人として見た者はいません。人間が見たことのないフロンティアに「探検家」として分け入るのです。

— もう少しわかりやすく、宇宙の始まりを教えてください。

宇宙は約137億年前に、高温高密度の状態から「急激な」膨張で始まりました。高温高密度なため、天体は存在しませんでした。

— えーっ、天体がなかったんですか？きらめく夜空の星々もなかったのでしょうか。

天体は存在せず、すべてが素粒子になっていました。素粒子は互いに衝突してエネルギーを交換していたのです。そのため宇宙はどこをとっても均質な状態だったと考えられます。そして宇宙膨張とともに温度や密度が下がっていくと、銀河や銀河団、星などの天体が形成されたのです。不思議でしょう？（著書『100億年を翔ける宇宙』新版、2015年第8刷、恒星社厚生閣発行を参照）

— 普通の人々の宇宙観には、宗教が影響しています。神道では神々が島や陸地をつくり、キリスト教やイスラム教では創造主である神が宇宙と星々を造ったと信じられています。そのもっと前、バビロニアでは同じように天体の星々に神の意志を見ていました。現代の天文学は飛躍的に違う次元にいるようですね。科学の奥深さを感じるには、天文学は良いジャンルだと推察できます。

2. 新星の理論

さて、宇宙の膨張とともに温度が下がる時、最初の数分間で核融合反応が起こります。その頃の宇宙には水素原子核、すなわち陽子しか存在しませんので、その陽子からヘリウムの原子核ができる反応が起こりました。ヘリウムが少し出来たところで核融合反応は止まり、ヘリウムよりも重い元素ができることはなかったのです。炭素や酸素、鉄などは含まれていません。重い星が一生の最後に爆発して重い元素を撒き散らし、現在のような宇宙ができていきます。星が誕生すると炭素や酸素、鉄などが作られます。

— 地球から最新の探査機がすい星に着陸して、貴重な星のかけらを採集してこようという現代です。ご専門の「新星」の理論についてお話しください。

私は星の内部構造を計算するコンピューター・コードを自分で作り、新星が爆発する時の光度曲線を研究する道を拓きました。この計算はいまだに世界で一人しかできません。

この理論を提唱した当時は信用されませんでした。現在では「新星風理論」として、世界で認められています。これはその後「Ia 型超新星」の理論にも発展しました。観測上の結果をきれいに説明できる天体物理学の理論なので、現在は主に国際学会で活動しています。

天文学は年の功で業績が挙げられるジャンルではありません。実力の世界です。才能を磨いて結果を出すことが大切です。研究歴の積重ねが重視される人文系とは 10 年以上の年令差があるかも知れません。

3. 若手研究者の時代、イリノイ大学での 2 年間

—— なぜ、天文学を研究するようになったのですか。

こどもの頃からピアノを習っていました。両親にピアノの先生になることを勧められたのですが、高校の時に理系にめざめました。決心して立教大学から大学院へ進学、東大の大学院にも出入りしました。そこで夫と知り合いました。一学年年上です。当時はもぐりの学生が東大のゼミや授業に出席して、共同研究にも参加していました。

—— そうですね。私もお茶の水女子大学の 4 年生から研究生時代にかけて東大の教育行政の持田栄一先生のゼミに出席していました。当時は意欲のある学生、見所のある院生は教授に勧められて、どこの大学でも出入りできるという自由な雰囲気がありましたよね。早稲田大の演劇科にも行った記憶がありますよ。

そのようなわけで、私は東大の天文学の大学院で扎扎实勉強を続けて、院生室の机を使用したり（持主に、ボクは天文台に観測に行くから留守の間、使っていいよ、と言われたので）楽しい時代でした。けれども、大学院修了後はなかなか就職できず、5 年後にやっと慶應義塾大学の専任講師になりました。そして 1990 年から 2 年間、イリノイ大学へ行き、客員助教授として研究できました。

—— イリノイ大学ですか？私も若い時代にイリノイ大学に行きました。アーバナ・シャンペーンです。アーランガー教授という歌舞伎研究者がいて、大学で歌舞伎を上演しました。大学内に劇場も 3 つあり、パフォーマンス・アートが学部になっていました。日本の芸能を冷静に分析する研究者の目は、シカゴ近辺のクリエイティブな研究環境の中で身についたものです。

見ました、見ました。私もアメリカ人の学生が、日本のキモノを着て「アイ・アム・ア・プリンス！」と見得をきる現地の歌舞伎を見ましたよ。楽しかったです。とにかく周りはどうもろこしと小麦畑ばかりのところですね。イリノイには小さな娘を連れて赴任していたので、夫は私費で京都から会いに来てくれました。日本では新幹線結婚でした。そして帰国後は助教授として大学で働きました。

4. 困難な時代、セクハラ被害に遭う

—— 教授になられたのはいつ頃ですか？

助教授時代にひどいセクハラにあいました。言葉による攻撃でした。セクハラに遭うと顔つきも姿勢も変わります。精神科にかかり薬を飲まないと眠れなくなりました。体の痛みもひどく、杖をついてやっと大学へ行くようになり、ついには休職せざるを得なくなりました。教授への昇格を 4 回拒否されました。（理由は「業績以外の理由」つまりセクハラ被害を公言したため）そして、ようやく 2004 年に教授になれました。

セクハラ被害を体験して、研究者として致命的だと思ったのは、集中力がなくなったことです。困難な状況の中で、研究者としての生命線である集中力が打撃を受けました。研究者生命を断たれては生き残れません。私はセクハラと戦うしかありませんでした。セクハラは女性研究者を痛めつけます。優秀な人材を破壊します。学問研究にとって、これほど大きな損失があるのでしょうか。

—— 私もセクハラ の 被害者です。20 代後半の時でした。暴力でした。必死の抵抗により助ける人が現れて未遂事件で終わったから現在の私があります。強姦既遂であったなら、即刻に離職させられたでしょう。その場合は研究者の道をあきらめざるをえなかったと思います。ひどい話です。セクハラなどという馬鹿げた行為によって、多くの女性たちの才能が学問の道から排除されてきたのです。人類の知的財産の損失は測りしれません。

5. ジェンダー・フリーへの取組みは天文学会から

—— では、ジェンダー・フリーについてお話しください。学会会議や JAICOWS 役員時代にはいかがでしたか？

44 才から 6 年間、日本学会会議の天文学研究連絡委員を務めました。(第 17 期、第 18 期) 幹事もやりました。天文学会は若い人材が役員になれます。原ひろ子先生をはじめ JAICOWS の役員の皆さんと一緒に活動もしました。

—— 天文学会で保育室を設置したり、女性の研究環境改善に関するアンケート調査をしたのもこの時代でしょうか。

はい。イリノイ時代にアメリカの天文学会では子連れが多いことを知り、日本に帰ってから天文学会の大会会場保育室を設置する活動を始めました。(著者「学会会場の保育室」『学術の動向』2001 年 5 月号掲載) Web でも設置のノウハウを提供し、他の学会の大会時の保育室設置を応援して普及を図りました。

—— 保育室を設置する費用はどこから出したのですか？

天文学会では経常予算から学会大会時の保育室の費用をまかなっていますが、そういう正式な位置づけのない学会も多かったのです。この流れにおいて「女性科学者の環境改善の具体的措置について」(要望) は、ひとつの成果であり、研究者の育児支援を進めるうえで力強い味方になったと思います。

(日本学会会議第 132 回総会決議参照)

—— 目の前に現れた壁には「全力投球で立ち向かい」、創造的な方法(クリエイティブな思考)で、問題解決を図る「研究者の本質」を、このインタビューにより、あらためて見せていただいたような気がします。

私たちの前に立ちはだかる困難を、小さくても普遍化して解決し、自分の専門ジャンルだけでなく、広く周りの人々にも行き渡るよう努力を重ねて「結果を出してきた」という実績です。そのためには、俯瞰する視野の広さと研究上の才能が必要です。JAICOWS は幸いにも、2010 年頃まで、猿橋先生、一番ヶ瀬先生、原先生、岩井先生ほかの人材に恵まれてきたわけですが、世代交代を控えている今後はどうなるのでしょうか。ここから先は皆さんの課題になりますね……。

(インタビューは国枝たか子による。)

事務局の移転について

2012 年度より事務局を田原淳子役員に担当いただくことになったが、2014 年 4 月より在外研究に従事されるため、1 年間程度、臨時に岩井宜子会員に事務局を担当していただいている。

連絡先：194-0002 東京都町田市南つくし野 4-9-4 TEL・FAX：042-788-5283 Eメール：yos-iwai@nifty.com
2015 年 4 月よりまた田原事務局長となる予定である。

新入会員の紹介

井谷恵子(京都教育大学) 2014 年 11 月入会

総会会場へのアクセス



住所： 〒101-8125 千代田区神田神保町3-8 専修大学法科大学院

会場： 8号館4階 402号室

交通機関：

水道橋駅（JR）西口より徒歩7分

九段下駅（地下鉄/東西線、都営新宿線、半蔵門線）出口5より徒歩3分

神保町駅（地下鉄/都営三田線、都営新宿線、半蔵門線）出口A2より徒歩1分

（この号は、桜美林大学大学院の直井が係りでした。）

連絡先：女性科学研究者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）事務局

〒194-0002 東京都町田市南つくし野4-9-4 岩井宜子
Tel・Fax：042-788-5283 E-mail：yos-iwai@nifty.com
<http://jaicows.fc2web.com/>

学会事務センター：〒162-0825 東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビル
株式会社ワールドプランニング
Tel：03-5206-7431 Fax：03-5206-7757 E-mail：world@med.email.ne.jp

郵便振替口座番号 00100-8-542793
ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキュウ）店 当座 0542793
口座名義：女性科学研究者の環境改善に関する懇談会